

2021年度 第6回コンクリート常任委員会

議事録（案）

日時：2022年3月23日（水）14：00～16：10

場所：Web+土木学会会議室のハイブリッド会議

出席者：下村委員長，山本幹事長

綾野，石田，岩城，岩波，上田，氏家，大内，鎌田，岸，河野，小林，斎藤（豪），坂井，佐藤，菅俣，杉山，玉井，鶴田，中村，永元，二羽，濱田，平田，本間，松田，松村，丸屋，宮里，森川，山口，山路の各常任委員

大島，加藤，田所，細田，前田，牧の各常任委員兼幹事

国枝オブザーバー

小川（事務局）

配布資料：

- 6-0 令和3年度 第6回コンクリート常任委員会 議事次第
- 6-1 2021（令和3）年度 第5回コンクリート常任委員会議事録（案）
- 6-2 2022年度 コンクリート委員会・常任委員会開催予定
- 6-3 示方書改訂小委員会 委員構成
- 6-4 示方書改訂小委員会 設計編部会委員構成
- 6-5 コンクリート教育研究小委員会（201委員会）委員構成
- 6-6 土木材料実験指導書編集小委員会委員構成（案）
- 6-7 腐食抑制型表面含浸材のコンクリート中の鋼材に対する腐食抑制効果の評価試験方法（案）
- 6-8 ひび割れ透水試験によるコンクリート構造物用自己治癒充填材の止水性の評価方法（案）
- 6-9 一般会計予算執行状況
- 6-10 養生および混和材料技術に着目したコンクリート構造物の品質・耐久性確保システム研究小委員会委員変更
- 6-11 部材詳細の設計と照査に関する研究小委員会委員変更
- 6-12 本部主要行事開催報告
- 6-13 新機能性マテリアルとしてのアルカリ活性材料の開発最前線

議事：

1. 委員長挨拶（下村）
下村委員長より，東日本大震災から11年，2022年3月16日に発生した福島県沖の地震等に関連した最近のインフラの状況に関する紹介とともに開催の挨拶がなされた。
2. 2021年度 第5回コンクリート常任委員会議事録の承認【資料6-1】
大島幹事より，2021年度第5回コンクリート委員会常任委員会の議事録（案）の確認があり，異議なく承認された。
細田幹事より，議事録に記載のある重点研究課題について，3月18日に開催された研究企画委員会にて，今年度は応募数がゼロであったことが報告された。
3. 2022年度常任委員会開催日程【資料6-2】
山本幹事長より，2022年度の常任委員会開催日程について説明がなされた。
第3回のハイブリッドの会議室は，全国大会の実施状況によって異なるため，後日，決定する。

審議事項：

1. 第1種・第2種委員会の委員構成【別紙資料】
 - (1) 示方書改訂小委員会【資料6-3】

下村委員長から、示方書改訂小委員会の委員追加について説明がなされ、異議なく承認された。

(2) 示方書改訂小委員会 設計編部会【資料6-4】

下村委員長から、示方書改訂小委員会設計編部会の委員追加について説明がなされ、異議なく承認された。

(3) コンクリート教育研究小委員会（201委員会）【資料6-5】

下村委員長から、コンクリート教育研究小委員会の委員追加について説明がなされ、異議なく承認された。

(4) 土木実験指導書編集小委員会（205委員会）【資料6-6】

下村委員長から、土木実験指導書編集小委員会の委員交代について説明がなされ、異議なく承認された。

2. 規準案の審議【別紙資料】

(1) 腐食抑制型表面含浸材のコンクリート中の鋼材に対する腐食抑制効果の評価試験方法（原案）【資料6-7】

上田規準関連小委員会委員より、腐食抑制型表面含浸材のコンクリート中の鋼材に対する腐食抑制効果の評価試験方法（原案）について説明がなされた。主な意見は次の通りである。

- ・腐食抑制効果の評価試験方法ではなく、防せい率試験方法としての提案の方が良いのではないかと。
→特殊な条件下での使用であるため限定したものとした。
- ・腐食抑制型とするならば、それを確認できる試験項目も必要ではないかと。
→規準関連小委員会でも指摘され検討したが、適切な試験を設定することは難しいと判断した。

(2) ひび割れ透水試験によるコンクリート構造物用自己治癒充填剤の止水性能の評価方法（原案）【資料6-8】

国枝規準関連小委員会委員より、ひび割れ透水試験によるコンクリート構造物用自己治癒充填剤の止水性能の評価方法（原案）について説明がなされた。主な意見は次の通りである。

・水の溶存空気が飽和状態だと、気泡よって止水する可能性がある。例えば、溶存酸素濃度等を計測して大気と平衡状態になっていることを確認する必要がある。

→検証実験では気泡による止水が生じていないことは確認している。解説には留意点として記載する予定である。

・ $0.1 \pm 0.05\text{mm}$ であると治癒が容易である。

・自己治癒充填剤の評価とあるが、どのレベルだと自己治癒の止水性能があると判断するのかは難しいと思われる。タイトルについては再考する必要がある。自己治癒性をどのように担保できるのかについて整理が必要だと思われる。

→どのレベルだと自己治癒性があるかを示すことは検討したが難しいのが現状である。

・性能の評価をしているわけではないのでタイトルを再考するのが良い。

→測定された量の比を求めるのは、土木学会規準のなかでは評価しているという判断とのことで、評価方法というタイトルにしている。

・実構造物の場合は20mm程度の厚さなども想定されるが、試験体の厚さは変えてよいのか？

→規準としては厚さを変えることは考えておらず、一定の方法で比較するようにしている。

上記の2つの規準についての意見照会の期間は1ヶ月とする。意見に対する修正審議は、次回の常任委員会での審議できるように進めることを目標とする。

報告事項：

1. 2021年度コンクリート委員会予算執行状況【資料6-9】

山本幹事長より、2021年度の予算執行状況について報告があり、主な予算執行としては、示方書英訳の活動に使用している旨の説明がなされた。

下村委員長より、示方書英訳の状況について説明がなされた。当初計画の通りに順調に進めており、翻訳会社への外注費用として支出している。今年度については、他の小委員会で予算の使用がないため、余剰分を翻訳のために使用させて頂いた。現在、来年度の予算として、国際センターと共同すること等で確保することを進めている。

2. 第3種委員会の委員構成【別紙資料】(司会)

- (1) 養生および混和材料技術に着目したコンクリート構造物の品質・耐久性確保システム研究小委員会 (356 委員会) 【資料 6-10】
大島幹事より、356 委員会の委員変更について報告がなされた。
- (2) 部材詳細の設計と照査に関する研究小委員会 (357 委員会) 【資料 6-11】
大島幹事より、357 委員会の委員変更について報告がなされた。

3. 講習会, 成果報告会の開催報告 【資料 6-12】

- (1) コンクリートのあと施工アンカー工法の設計・施工・維持管理指針 (案) に関する講習会
- (2) Frontiers of Concrete Technology, 3rd JSCE Concrete Committee Webinar Simulation of concrete and reinforced concrete structures using discrete analysis models
大島幹事より、講習会等の開催について報告がなされた。

4. その他

- (1) 全国大会の研究討論会 【資料 6-13】
大島幹事より、研究討論会の内容について紹介がなされた。
- (2) カーボンニュートラルに向けたコンクリート分野の新技术活用に関する研究小委員会 (234 委員会) 活動期間延長
大島幹事より、カーボンニュートラルに向けたコンクリート分野の新技术活用に関する研究小委員会 (234 委員会) 活動期間延長について報告がなされた。
- (3) プレストレストコンクリート黎明期に建設された茂喜登牛水路橋の解体調査研究小委員会 (363 委員会) 活動期間延長
大島幹事より、プレストレストコンクリート黎明期に建設された茂喜登牛水路橋の解体調査研究小委員会 (363 委員会) 活動期間延長について報告がなされた。

次回開催 :

日時 : 5 月 26 日 (木) 14 : 00 ~ Web 会議 + 土木学会会議室のハイブリッド会議
議題 : 幹事宛 5 月 6 日 (金) までに